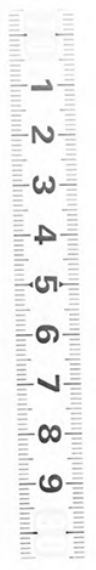


## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

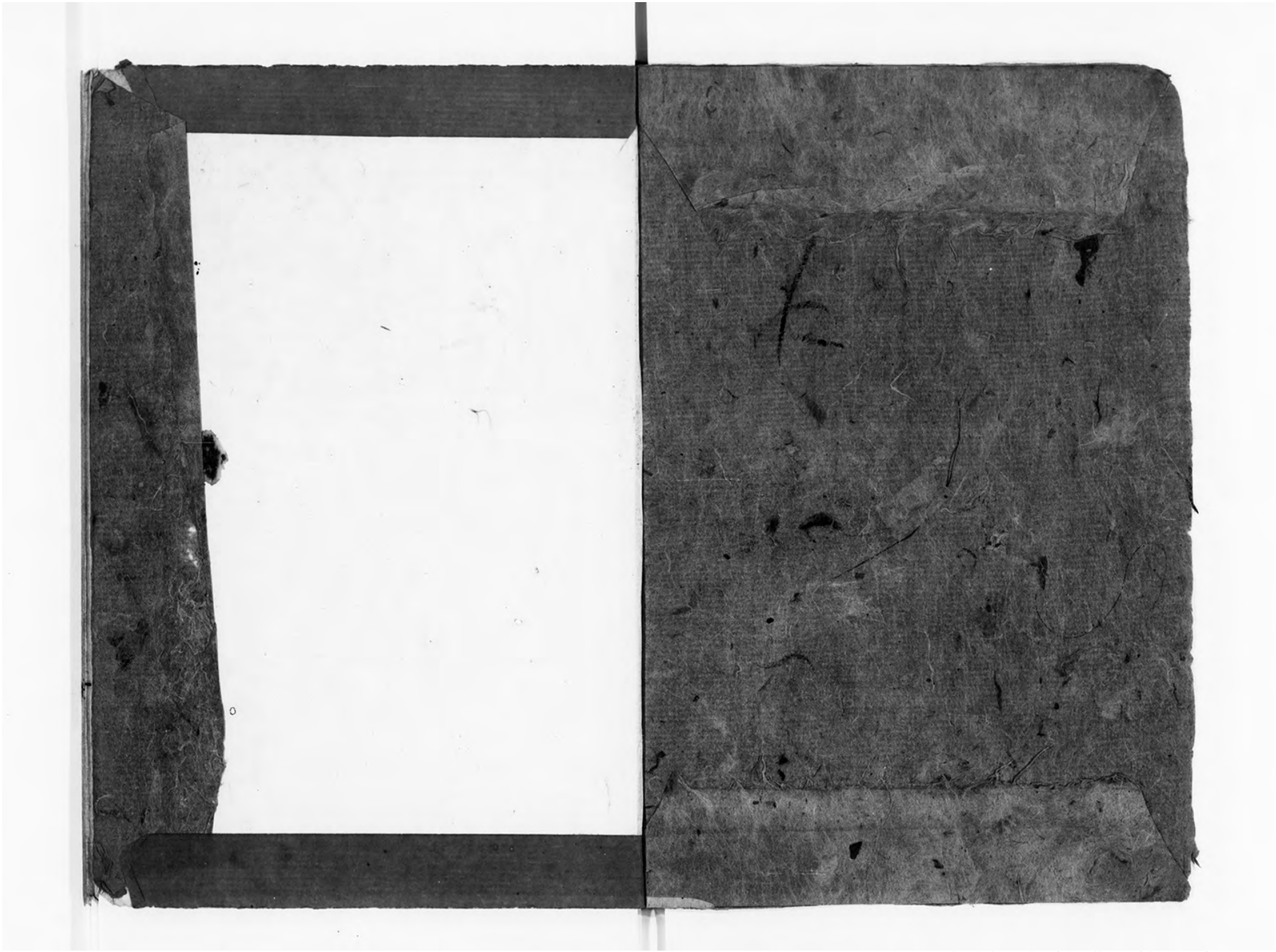
- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



郡史  
拾遺



82  
141





經濟學部  
研究室  
82  
144

京田組大庄屋附北  
外 我拾典京田組持渡

我拾典

法成堂年台名渡

文政八年

丙七月

庄田二郡中継控條之



一前之流

公義法作出以法度之趣  
堅相守常之不相背控村市  
大小之百姓每以言下之忠度  
申付事

一切支丹宗の儀思年隆盛  
かゝるを不審其宗の者あり  
以名の子を中出沙屢美の被下り  
隠匿昭より扶之露頭志大誤  
所莫長人か人紐と控と通す付  
借家借地毎寺社方山伏行人鉦

くき其外穢多と歎ともく  
恒居る者い不抄宗の人別帳に載  
入志の相改毎寺山月中性面  
差出事

但切支丹持人の表毎数様あり  
ふ志別帳に記之の指出他村が

縁起亦古く族来りたるものあり

以て其の遺る所を記す

一 浄制札古く朱文字なりて字は  
又ハ露破りて後亦ハ字制り

一 浄寺貞徳侯亦大切ニ書寫勿論  
毎年浄免相宛次第其村百姓

前付意小札なるもの相渡り法後

小物来村難目等役あり元割

帳相渡り終り村大小百姓

あり其の事下入意割付帳面記

端々疑敷く存指りし縁

由細仕得る力積りて為る迄

依古鼎原無私之割掛守之  
り儀肝要長人百姓相判に  
並進ふ也亦世に格に之故並に  
清事負皆漸儀を子控振  
より日限下付る旨日掛通世  
お邊米穀相納皆漸意及お勤

以格に並つて其心得事

附清事負皆漸る米穀一切

他(中)りる也

一徒黨を結ひ一味同心仕儀  
清事心は若控詞を云神あり  
清事りしき儀あり志あり

近き法應為て終りむ仇とあり  
しる程と申付事

一親不孝行と云し下人の言は  
まゆ中結兄弟睦友なる光  
くを致し物と相毎愛順路に仕  
村中へ務れ孝行奉者まゝに

一志和子と云る下出不し江と名  
あり毎夜に如実見こま上小  
不相用者其能の事也

一養業法に精を盡しつお勤拙  
者ありつ出又老て子もき  
幼のら親を離れ或は後家



或は長頼おのりて正統以上と表へ  
秘立者もこのいふ一類せし名乃中  
好美也人亦正心と合せし立  
下り物も組内助合の速きとら  
會しり事  
附の家職もよく相入りの道

いふ致吟味より也

一清年貞淳及納米と徳村中  
お味は津江と内米と分る色  
程の致

附化物の文は近日著る書物  
人並りの入る書物無り

他物より老るるに不依行者  
行葉を以て相履る

一人賣買は行山に留置し替は  
な多人 幸季に成り得捨るる  
一捨子再捨半るに留置し留置し  
お雪その他に捨るるに留置し

中へと春よりして並出るるに  
以てしきりし出に他山に捨半馬  
まこと故半るに留置し來る者所賣  
長人百餘能に致論議村に知者  
に其村に則葉本を以て多取置  
お通にまじりし留置し物に生れし

情に不実な情事成一切は是等の  
附牛の賣買に依て人と云  
外賣の紙の如きは又馬  
筋を正に依て情事は尤也場  
獲牛の故し中の方あり

一、紙の儀町場は並に在紙の

向寄次第の如きは紙合世紙  
の如き紙合人一人百付借家  
借地と名再の言古紙の如き者  
等、紙合の紙合、大紙、組、  
と云ふ事あり、その如き紙合、  
格別と云ふし、常、紙合、紙合

世に神の子弟と人との法度と懸絶  
に付て是の如く老若の如く業を  
人々に付て是も不用者も之の如く  
若し肝菜を人非義も之の不佞  
行事すべし  
附て人非義定む此に押して判外

別く市販の個無きもの細く  
下判幣を又二分先付を肝菜  
長人万姓の如く此の市鑑の  
差出くしと録者に行賣す下  
鑑の指し出たる下判の大切なる  
物に付て振致す方あり是又名を改

いふ事なる其長人交結の事なり

一 沙林山草の竹本枝葉も草中と  
多用の代採り方あり精を出し林  
仕立下りし里漆山漆ハ勿論楮  
葉極付の致出精事

附 沙林山草採り方后屋敷事本

志勿編目之の竹本枝採り事書付

後示ハ草中より草葉は又採り

こは草葉は根の葉紅りる事

一 田畑草の草水水代賣買は  
以て堅相方人し草草草致賣  
買り草草草草草草草草草草

表肝葉長人少人紙紙判之六  
庄屋下出、傳者爲、まゝに取  
有、情味、し、田面、後、人、書、出  
未、~~書~~、乱、~~中~~、指、~~に~~、致、~~す~~、務、~~に~~、より  
場、~~下~~、替、~~成~~、致、~~り~~、多、~~し~~、肝、~~葉~~  
長、~~人~~、少、~~人~~、紙、~~紙~~、判、~~之~~、六、~~庄~~、~~屋~~、~~下~~、~~出~~、

沈文（~~に~~）致、~~加~~、~~判~~、~~に~~、~~多~~、~~し~~、~~出~~、~~勿~~、~~論~~  
質、~~入~~、~~田~~、~~畑~~、~~未~~、~~事~~、~~自~~、~~事~~、~~力~~、~~危~~、~~に~~、~~爲~~、~~運~~、~~葉~~  
志、~~地~~、~~全~~、~~分~~、~~出~~、~~成~~、~~成~~、~~の~~、~~致~~、~~り~~、~~多~~、~~し~~、~~出~~、~~勿~~、~~論~~  
是、~~又~~、~~田~~、~~畑~~、~~一~~、~~化~~、~~賣~~、~~或~~、~~に~~、~~少~~、~~作~~、~~前~~、~~葉~~  
申、~~分~~、~~補~~、~~に~~、~~着~~、~~於~~、~~無~~、~~授~~、~~子~~、~~畑~~、~~儀~~  
後、~~取~~、~~に~~、~~多~~、~~し~~、~~出~~、~~勿~~、~~論~~

但行賣田畑雙物に乃相行賣  
 長人百姓加米の元之  
 一前之被任出通取中主質  
 貸取之儀古渡心の中主質を  
 之り共出取之知性取雙物之及  
 申惣之請人無之雙物不之及

如し預物之り之元不賣米  
 物之及取中乃事

附並物乃取之在取者之者  
 平事行賣長人百姓五人  
 平之取取之乃取者之者  
 其味取仕乃取之

一博奕賭徒簿頁毎月ノ宿法  
沙割禁ニ以テ其宿ヲ特奕仕後日  
相知者本人ノ名及中一應者  
申テ其宿ノ事

附寄合又ハ高ニシテ特奕  
似ル者類モ一切仕

一御米下ハ勿論河墨下毎騎賃  
傳馬儀常ニ吟味致シ並ニ  
夜ニ多ク心ヲ移シテ其宿体  
節ニ限リ時檢査ニモ本錢ニ  
モ相寄ル申立指シ宿法ニ  
又先ト人馬留ル者刻限不



遠の如く助入るる事は良省の爲  
年寄の致し味其省する事  
而して務事能く物付く儀一切の  
致す事ある事人する内合  
割程の事先父母帯  
出く後自て戸也

附河朱下并涉從父等  
馬の由駐貸抄ふ出通り  
有るハ押並大庄屋出此以  
三云詮議の上御性有御  
者此より下直事

一 湊之浦之江津高札懸之書

河城米船雖風之甚助船遂  
精文園一し若破船多之去根  
米像之波中、浪急之浪也  
船儀右之準根米像之波也  
是又浦之舟以舟之流之舟也  
有之、以舟之舟、舟家財流本

等之至之舟連下浪急之舟  
附漕之船若場、舟荷物、勿論  
誰人之舟、也他船、舟之送  
舟、舟、又、他船、舟、舟、舟  
致、舟、舟、舟、舟、舟、舟  
舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟

田代の事

一 武石積とて海船合せに  
役所へ相討り

一 武家女を人毎は是を業(道)  
母終はまゝくは勿論刀とては  
もの口付せし馬を弄致る事あり

一 生業とて家儀に好むとて中醫師よ  
かえり業を用ひ能く看病しと相  
通ひ毎酒酔はるは是より部居りの  
ありと然致女抱り歩程叶ふもの  
其者の立也とて中布とて穿ひ衣  
をたつお渡り旅人より相果たり

番人付其志所轉く難物等  
肝實長人百姓之害相改帳面  
記之於其書人記事進言を以  
其害を傳へし山母堂云其  
外何と云ふ其日音人例ま  
よ又ハ溺死の者因ありて

雪中「猛風」を助入助舟の  
出と事

附病年にも其の二載と宿住  
中々くは其押の宿借申の  
多しは去肝實長人百姓云云  
極人々其言と中宿借申の

いふに、盗賊の

一盗賊悪黨の者ありて、其の略を  
しに隣村に在りて、搦捕の計  
を以て、刻に出入者志の多し  
は、又堂の山林に隠れ、劫  
を為す者あり、肝煎村中者

相誘と搦捕の計を以て、搦  
難計に、是れを以て、盗  
落着く、又、盗及、以て、盗  
後日相知、曲事、す、付事  
一徳園、交易、格人、問、付、再、あり  
宿致し、其の、あり、如、生、来、し

格人檢校居外振定以判  
まゝに親類知者亦因向を  
越は若くは致しりお人地一為  
相知行末之むひりり

附家社人神事定行人若宿  
替女座以神子延き乞食

等其外縁多類を以味  
いし如乱れりもの一報者も貸  
申す者も常々堅下り付事  
一沙粒無他領者沙領内は我  
思ひりりり一書札一立海居は像  
相知いりりり一書捕手若宿

不申後心の中は老馬と信じて  
是又思ひのうらみの其場西に  
平速に捕らえ氣又後心の中  
の信を急事

一獵師鉄炮又ハ滅鉄炮渡並  
鉄炮の位並尤人借打す

うらみの

附獵師の如く致致生獵師

名鶴井の早速にす

一往還の如く又ハ當村表喧嘩  
口論の如く又ハ速行焚長人  
其會の割と多負死人の中

其お子押並の注をくみ捕は  
儀程の注を以て慕ひ落着  
くま(急度)す(度)り

附他町り有る者も後出也

やる押並の注をく事

一新規と寺社志と及申繼ひ表

よりを再建の儀堅る候に度申  
塚石塊就石塔の形と田畑野山道  
路と端(新規)一切立万揃ひ再  
考有る寺社信託人亦替ひり  
て注をく又新規と出表社人  
陸湯師座以道乞と族者並百



為りあやむ務勸於まゝに役所へ  
申出さし請差遣り

附新起るる務所不の元之佛  
社再建每他所へ當ら相移し  
開帳仕候らるゝ前方の御座り  
他所より社樂と送來り候

不の傳元村中へ皆もその  
為に事

一酒屋株に係り新酒屋古  
傳り

附心算惣高へ成り先年相改  
燒札札お渡さるゝ形又當実

後及年、改、戸籍、人、別  
此、高、賣、業、神、書、載、り  
濟、如、獲、高、賣、業、用、之、り  
田、畑、水、邊、の、地、起、り、并、新、田、  
田、畑、水、邊、の、地、起、り、并、新、田、  
細、り、於、私、志、奉、人、ハ、不、及、り、貯

莫、長、人、る、姓、人、世、に、あ、る、也、り  
是、は、能、助、地、場、を、も、以、り、埋  
或、と、挿、り、り、事、事、

附、毎、度、道、に、お、酒、に、村、に、  
と、名、橋、水、邊、の、地、起、り、并、新、田、  
細、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

他道と切せしめ申方ありは  
新にせしむ付サ万端の  
一入き登山并西持山とて某  
本松を以て挿立申方ありは  
備と入の後より傍山山林を  
勿論物とて悔忌燈火除疫

田畑(山崩)を松山林(苗木  
と挿立)の申事

附山中に焼畑は有るに格  
別なき所燈火付く傍に傍山  
も焼畑とてこれ山林山林  
焼入り松林を以て運送を

折寄相防之事

一海邊脇田畑痛中万補以乃無  
為其田畑中一遺付中万亦  
務之不及中他物了之合世中  
之任以馬門通以名了之口取付  
流中事

一田畑屋敷山登獵場松并

用有魚門付松並論致以  
水論再論水一刃根差幾勢亦  
不特出不依何の所換表若  
者之其料奉人后下重事  
附酒池并海家事以多列中事

ある處して石竹世ふる其  
場はより仕来通復更お者  
或はあふ役人火堀古立とわね  
法とよ水落江と丈夫築  
立の事

一堤川除伏樋掛樋惣ふ用水

場取の又志祝巾漕水の時と  
番と付番老ふらとてつとて  
村中おとと圍と考と肝葉と  
外巻と役人具と少役と射波  
所復田畑損毛と務と仕と  
附堤川除其外は

上役より人足扶持當座割  
りし銘判紙行葉文より取  
並比勘る所様々件留込合勘  
定仕方あり

一 菊の儀又ハ中人合の者ハ  
寄合各村方用酒肴一切給

申す方おの熱心少くも費  
サシ給の仕事

附役人百姓共給一切給申  
急ハ目定給出持飯給の  
申以贈給申不可儀志  
所限申付あり

一、市村用色物像形葉長  
人百姓少知通論議入意  
用多無權之勢入用之度  
帳面記實中必行查長人百姓  
去相改致割賦想百姓未敢致  
軍中入用帳面清完為計毋完

相混至是無以達之便也、指至  
是冊、肝葉子亦一、至至終矣  
至始之致之外、別情仕至首  
至之割色以成仕、可也事  
附行葉方、入用銀解、亦其  
見馬、示者、忠、成、友、者、也

外一錢もふらぬ無碍入用  
清田出病中いづくに候了申出  
若くはのち入用不致秘法表  
有るに急度了申付了  
一他取立去海に制禁のいふ事  
按子細ありては後申出候者候

惣之他取立儀に付申出候事  
若し御事立他取立申出後日相  
知候事可為曲事候

附此証書者取立候事  
御事

一持来り田畑子孫のわかれ候事



致美なるものかたむきをいふ  
高き名も由ふらん多し幸甚  
大庄屋元相座なる由水田田舎  
人お改下りふ言百姓の物飲まへり  
徳に成り成存生る内所長人  
万姓の人加判の致すもの

一 勸を能くめりしり自方秋舞妓  
さしおとせよの類一切は仕るもの  
是又越女坐ふらるる者也  
附 狂言踊とありし或は津浦理三  
味楽池沼不おむり日書  
やぶらぬ世の昔舞うものもいふ

おまゝに急度下り付り

一百姓に似合風俗を被し長服を  
と帯し之を耕化仕大海陸程  
悪雨程に仕り此之宜き者も  
多敷を申出ぬり是又新規當  
村一百姓にも若度と彩者も

出西へ向ふ合所此程先之播止  
し多敷百姓相法と上請人と  
宛め定りも相改申出者も  
請へし毎當村に生く者も  
他國へ以て教應ゆ者も  
同方なり

附当村に因成の言と成の言  
又、身常津の住居難本末  
あり、二道とて、他村より  
子細中より、言と成のもの  
あり、二道に親族より、言  
一切の言と成のもの

一人情に依根の言と成のもの  
を親族又、二道に成のもの  
肝葉を、人百姓を、相親  
情の言と成のもの  
一店借地借每浪人おまはる言  
一切の言と成のもの

一 恒座の浪人等、此の村に居る者あり  
一 水牯角の事あり、其の事あり、其の事あり  
一 度申申る程の事あり、其の事あり、其の事あり  
一 其の事あり、其の事あり、其の事あり

一 清用儀、此の村に居る者あり、其の事あり、其の事あり  
一 夜に此の村に居る者あり、其の事あり、其の事あり

一 生之侍、此の村に居る者あり、其の事あり、其の事あり

一 一人改、此の村に居る者あり、其の事あり、其の事あり

一 中合、此の村に居る者あり、其の事あり、其の事あり  
一 女、此の村に居る者あり、其の事あり、其の事あり  
一 其の事あり、其の事あり、其の事あり

一 附、此の村に居る者あり、其の事あり、其の事あり

石浪能あふ志見ありりいふ  
中合留並下り出想ふ他能入  
山越少者見當今少事雨村  
不浪搦捕り出清渡渡り  
波りく多又間道東南先立  
等流流志々急度下り付り

一火と元あり入志大切仕由村中  
中人合留雨と立事人として事  
長又心就少事負米ありり内八  
村中少者替り少就事仕惣と  
風烈去及長入念行去長人百姓  
相守りり人巨常と用心大切

仕り然火の者も其の号も  
当村の志は不乃中隣に志  
早連火消るるを特馳付精  
少く消えを心就弟に園之  
若焼失米も其の節に  
為毎納又ハ益紙と也損之

分去村中丁毎納の

附居宅の勿漏少屋小に

火の者も其の丁に

一百姓あり紅集の少事  
銀納の意代肝葉苗性  
納まじ字取の意も其苗性

一 米判押切山百姓に渡  
並後日米判之致事  
附納米米判之致事  
三云米判之致事  
少米判之致事  
村名納米判之致事

米事

一 卿就沙米判納米判之致事  
等五米判之致事  
前切米判之致事  
表米判之致事  
一 米判米判之致事

納の爲に納方表及び夜済の表  
と爲す所肝要長久百姓に致  
相封を打止るべき事以味はる  
爲儀有るに事未可申す

一 沙年首米収納を以て米  
大屋とも加穀物取扱し入札

事ハ皆済ふ事百姓有るに  
も亦此年更無法取銀と村中  
より各納の事付く条前より  
相承に付る事以味取扱す  
もの柱もこの中出る

一 沙年首米以下儀宛表



格別と外と志と云ふも  
第中において遂に味と事と船  
中難用并法藏細道等  
法大用番田帳面記入用多  
少懸と格下仕と事

一 百姓衣服儀男は布本

綿と云ふ表襟袖口帯も絹類  
と云ふ面々ハ義經と云ふ者事

一 大紐以面々ハ丸袖本原合  
傍手取束若用と云ふ事

附襟装束にも本原と云ふ事

一 垢入聲と云ふ祝儀毎佛と云ふ

より種くは仕大勢集火酒す人  
くは勿備新理もき儀一切  
仕るあはれに、葵禮儀法事  
分限ふおむ仕儀仕りくはあ  
相背せりも志す出急度  
の申付事)

附目之は萬傳物と志る者もき  
儀法仕りくは仕驛場家  
作志る格別事)

一惣の家業不精本もの田畑是  
仕志るも志急度申す可  
申付る初めと親に頼れ或

老人或ハ得方ニ言姓相炊耕作  
成あり去親類縁者ト云々  
小人江村中相生ニ助合ニ事  
致上納り程ニ仕ハ物ニ村及  
相勤いものハ心盡と書し松欲  
毎依古鼎負ふ仕蓄く村中

心と付身ト云々志と恵ト云々  
その中又云々小人江村中  
町業ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事  
而理也と致し小人利害と云  
中論ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事  
有ハハハハハハハハハハハハ

上を重し 涉法度 宿習 指  
村中 小宗 志 至事 常  
么 付 事

一 休日 儀 正月 元日 七日 十月 廿  
五日 廿日 廿日 廿日 七月 十月 廿  
日 廿日 廿日 廿日 相体 〇

附 正月 七月 吉休日 亦 平月  
四日 休日 外 相体 中 多 端 以  
勿 論 吉 亦 月 宜 月 有 之 矣  
平 月 通 四 日 日 数 計  
相体 事

一月 休日 儀 正月 七月 亦

朔日八日十有廿二日一月之實元  
相体の事

附者定体日外三月言五月  
昔七月言九月言相体の  
申以是又六月朔月朔日  
去曾体日内込の事

一 事巾義化子言一日法言縁日  
一日田植体一日田植は虫送り日  
都合各日相体了り  
一 働日内多義粉体一日田度  
家お致了り事  
附者相定以体日外身

相体、儀、致、中、方、少、以、大、小  
之、目、姓、有、言、無、子、弟、以、仕、人、の  
と、と、不、相、背、損、者、あ、る、は、  
若、相、背、あ、る、は、さ、ま、り、に、道、  
並、脇、より、相、知、り、道、人、の、勿、  
論、の、意、長、人、百、姓、中、人、に、  
と

之、為、越、度、事、

一、字、色、は、人、毎、日、仕、事、に、種、品、茶、  
等、物、禮、物、一、切、仕、事、に、以、押、賣、  
押、賣、行、う、る、は、以、不、能、法、致、  
以、多、早、と、以、新、と、以、出、徳、置、  
後、日、に、相、知、り、肝、要、長、人、

百姓の爲越度事

一 諸役人等中相与る言續代に  
儀ありお定ぬ通ふお増中  
りあり物と在入し燈茶点  
一 汁一菜子海の贈りし是  
益し不調並村入用(割る)

村役人より越度及び毎世用

人より集金並百姓除費中

可及事

右之條に照し相与る言違背

事等推し去る由事

此帳毎正正月七月一々年

二、度宛村中大小之口数出言  
等之寄人台得与为續字等  
此越致台息存在此稿之  
念者也

文政元年丁亥九月

在町(中渡書)

去九月申中社信出以在町戶籍  
人別情与抄出来  
御城下續心其地古社心其給  
名子者向町所之少人延介信  
相濟以信之程中渡書出也



沙越之志也とて通板志者  
不云存立と云は法より沙法令  
出掃も不存在是又沙法序を  
背心得意と考者といふも相  
以味難及追板欠落也之爲  
もの隠居らるも改まらぬの在

博奕盜賊之悪業地領に  
沙領由入五石はるも事蹟は依  
せしむるに不む知沙領中徘徊  
しむるを悪しむるを致しむるの  
穿鑿も難し有る月戸籍人別  
志嚴定に改悪者徘徊も難致

事<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>正<sub>レ</sub>歸<sub>レ</sub>官<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>  
志<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>堵<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>各<sub>レ</sub>威<sub>レ</sub>  
業<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>勵<sub>レ</sub>父母<sub>レ</sub>妻子<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>  
以<sub>レ</sub>極<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>の  
御<sub>レ</sub>仁<sub>レ</sub>惠<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>系<sub>レ</sub>  
以<sub>レ</sub>涉<sub>レ</sub>越<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>

相<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>村<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>  
改<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>惣<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>  
涉<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>度<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>經<sub>レ</sub>  
以<sub>レ</sub>若<sub>レ</sub>急<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>只<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>  
之<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>涉<sub>レ</sub>越<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>  
涉<sub>レ</sub>越<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>涉<sub>レ</sub>越<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>

第一古所産物大庄屋深切  
相心所住人村役人共多  
其悔忘中渡次村役人  
主振く人組以中官中人組合  
者親之と厚くし善悪  
一家内心持おる事越之  
届

以是振在町役人共達と  
町六月

鄉村(申論書)

戸籍他人別あり

御城下町とけり心村乃

けりまて沙紀のま  
沙紀中一人とて出入り  
あはるはなほいよの世に  
ぬ月さかればいよの世に  
しはてはよきあはれう  
こゝろ沙恵にふまはる

るまゝにゆく

御愛あをりて在りま  
一人とてあはれお業穢系  
法の業に精をこし老る親を  
養ひ初まき子を看み人  
ふきこく 思召の程にま

多難くんは入き事よは

一多久しく傳へる家或は内の子  
親類も廣く仕の男女もよく  
あつたよ家を持ちこゝ滴りる里  
移り親戚の遠きよある隣りの助  
を頼むしられは傳へ内の子よ

傳付たれは遠きよも力も強くは  
他を頼むしきよもあつとられは  
貧富の計しり老少の計しは  
さしきよは後のものとあつり毎  
朝夕は内を頼むしよは色え  
の心きや金と入し内の子よ

るこま池の取乃力なるとし終に掛ひ  
うは紅扱ふ長人の力をうへし一村  
睦しく治り孤獨の老も朝夕をや  
すく送りも肝葉并流伝の精働  
成へしかれ村々心磨養をうへし  
一照つき早魁のやうに村々人の力を

合せあをひき人にとはま計り  
持ちけりつる精をわしおまうる働  
し他の苗れ指るととらまを継ひ  
まふれ持ちつる他へいれ其村の  
守るれ結雪の神乃いそる無と終  
りむむねのつる仕合のよめ事

ありて又ハ他の徳儀をこゝろ  
及こころの祈禱をこゝろ心をせら  
沙智とて中家とて力をこゝろ  
毎一美法のこゝろにきき精働けし  
一ととぬかんとてこゝろは  
あやまらうぬへし又ハ我を提

寺とてぬし美とて清ハ先祖  
とぬかをき親孝行の事とて  
一善法を教本然のこゝろと其村の  
結習又祈るべし

一朝にせられたき夕にたそぐいよ人ほ  
精働たるとも老る親幼とてこゝろ

けくはやがふあめけくちて初夕に  
もききあはけ行夷流役長人  
女入屋内心并沙惠の浅くは初に出し  
一病いらくそて身是の弱くは若と男  
縄とまひ甚と織草鞋類の学し  
女と草ととうと布本綿と織りの

すきとくひきじふ合用とぬいよ  
けし市町きく高は役ありき  
村里ハ村役人の志計いよく一  
大店屋徳の心とけし  
一家業職業よ怠り困窮よせり  
途あく毎もきき女子共と飯盛



奉らよ出し、富座の法をくするハ  
心招めしきつものひきこも思つたる心  
ふ後の事、ふ一旦怒ひなまさせら  
女とありきかひよし、終方の誤  
とまりんらよのなまへひきては  
朱田なるも、此後、正人田畑は難き

ひかり、なつともあり、こころはなまなり  
おす、いなき、親れの老と、よめ、おと  
私さう、このと、知し、但、ふて、多、ま  
も、お、と、く、や、い、なら、持、なる、も、あ、さ、い、の  
又、い、ま、の、世、と、ら、あ、く、し、女、童、の、身  
と、な、り、舅、姑、の、老、と、ら、と、ま、い、ひ、の、便

飯茶をまゝに出さねばいへば  
をりーまゝのりまゝとむじまゝいあら  
まゆりともも又あられさへし  
村の役人おん世心と人をけひ  
あへし

一肝英海流役ハ船夕一村心と金

長人おん世心より合せたふり  
少あのをとと家業臧業と働は  
充ちると助けぬ得と情之たを  
も常く世村ととりありの名あふ  
美と申じ物づく精傷の志ハ  
申出へし

おき条ととね便と組内の心はと美を  
よよの被物出と条多とあ人組あ最  
のよとと六村と銘雪とあ礼簿湯之  
等と初大や百姓水呑小あふとと  
きとせ常とと中福志也

文政二年卯六月

五

120

〇〇〇

+

